

空白と点り Emptiness and lamp

高畑 紗依 TAKAHATA Sae

03月03日(水) - 03月13日(土)

OPEN pm 1-7 水・木・金・土曜(日・月・火曜休廊)

+2ギャラリーでは、+1artでの企画展とリンクしながら、新進の若手作家による展覧会を開催しています。実験的な試みの発表の場として、ホワイトキューブではない小空間を活用した企画を行っています。+1とあわせてご覧いただけますようご案内申し上げます。

高畑紗依は日常で見過ごされたり忘れられたりしがちな場所や対象物に目を向け、その輪郭線をカッティングシートで抜き出し、空間に配置する作品を制作しています。本展では、光や影というさらに曖昧な輪郭線によって、それぞれの記憶と新たな記憶を結びつけ、そこにある/あった時間の再構築を試みます。

+1art

高畑
紗依

TAKAHATA Sae



1993 大阪府生まれ

2019 京都精華大学大学院博士前期課程芸術研究科版画領域修了

個展

2020 「あき地」(KUNST ARZT/京都)

2017 「まばたきの数だけ」(KUNST ARZT/京都)

グループ展

2020 「GURA STUDIO/GALLERY Opening Exhibition」(GURA スタジオ/京都)

2020 「Kyoto Art For Tomorrow 京都府新鋭選抜展」(京都文化博物館/京都)

2019 「A-Lab Artist Gate 2019」(あまらぶアトラボA-Lab/兵庫)

2018 「あけくちに長靴」(京都精華大学対峰館101教室)

2018 「ニューミュレーション 変・進・深化」(京都芸術センター)

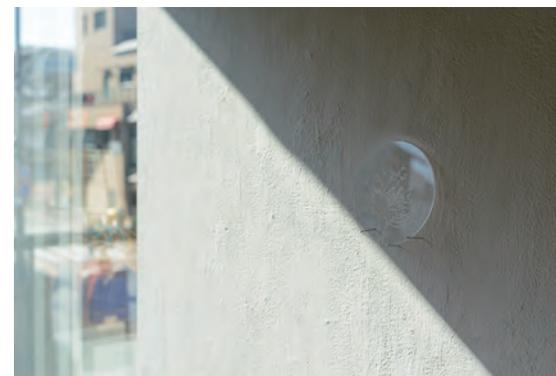
2016 「京都精華大学大学院研究発表展」(京都市美術館)

2016 「連鎖とまたたき」(京都精華大学ギャラリーフロール)

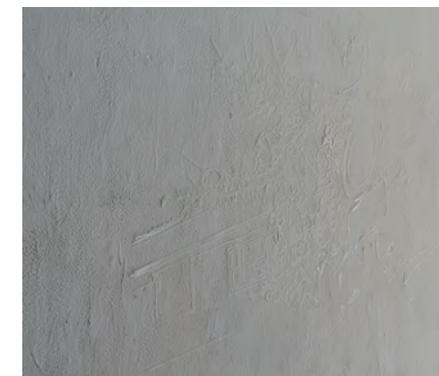
受賞歴

2019 京都精華大学展2019 理事長賞 受賞

2018 第8回新鋭作家展 入選



「残った木」 2020 アクリル板、スクリーンプリント
*空き地にあった一本の木の輪郭。
光を受けて壁に木の影を落とす。



「Linescape (あき地)」 2020 カッティングシート
*なくなってしまった近所の建物の形を
壁面にカッティングシートで転写した。

私たちは、生活する中でいくつものささやかな物事を取りこぼしながら生きている。まっさらのノートに、光が差し込む瞬間。隣の土地に生えている木のここと。通りがけに見た、何も無いように見える場所のこと。今日見たものや聞いたことのほとんどは忘れてしまう。生活のなかでとりこぼされていく場所・物語を拾い上げるための方法として、事物をうつとり、留めることを試みる。

| 展示作品 |

インスタレーション

素材/シルクスクリーンプリント、樹脂、本、紙、スライドプロジェクター